

教育長賞

もったいない

浜松市内小学校

四年 縣 さん

「あっ、また出しっ放しだ。もったいない。」
あわててじゃ口を下げる、しめる。小学校の水道のじゃ口の見守りは、わたしのひみつの日課だ。今日は五回も水の出しっ放しを止めることができた。とても良いことをしたようで、わたしの気持ちはスッキリした。

わたしの通う東小学校には、トイレとは別に手洗い場がある。ひねるタイプのじゃ口が五つ、レバーを上下するタイプのじゃ口が一つ設置されている手洗い場が各階にある。わたしは四年生だから、二階の手洗い場を使う。一、二年生は一階、三、四年生は二階、五、六年生は三階だ。

手洗い場は、いつもにぎやかだ。手洗いする子はもちろん、絵の具を洗う子、歯みがきのうがいをする子、ただ水を出して遊ぶ子などいつでも混んでいる。それだけ水場は人気があるということだが、残念なことにみんな水の大切さがわかっていない。水を出しっ放しにして、どこかに行ってしまう子があまりにも多い。一階の手洗い場はとくに出しっ放しが多い。きっと水の大切さを知らないからだ。地球上の水のほとんどは海水で、人間の使える水はわずか〇・〇一%しかないと教えてあげたい。水はとても大切だ。じゃ口をしめるだけ、下げるだけでいいんだよ。かん単なことだから、みんなやろうよ。水の無だづかいを止めれば、他のことに有効活用できるよ。じゃ口をひねった

らしめる、上げたら下げる。もし出っ放しを見つけたら、同級生や高学年の子が代わりにしめる、下げるをする。とても簡単なことだよ。

わたしたちがじゃ口を見守ることで、この地球上で使える水がほんの少しでもふえたらいいな。わたしも本当は水遊びが大好きだから。